

きこえの困難さ検出用チェックリストによる相談事例の検討

きこえ困難の要因とその背景について

小川征利

(中部学院大学博士課程・岐阜県立揖斐特別支援学校)

KEY WORDS: きこえ困難、背景要因、発達障害

目的

小川・原島・堅田 (2013) は、聴力に問題はないが「きこえ」に困難を示す児童に関する調査結果の因子分析的検討を通してきこえ困難の要因を「聴覚的注意」「聴覚的補完」「聴覚的記憶」「聴覚的識別」の4つに整理した。本研究では、要因別にきこえの困難の背景について、相談事例を通して検討した。

方法

きこえ困難を訴えきた児童の養育者 (6 名) に対し、検出用チェックリストへの回答を求めた。次に質問項目の評価点から4要因それぞれの平均点を算出した (Table 1)。各事例の最も高い平均点を示した要因について、きこえ困難に関するエピソードや WISC 等との関連を分析した。

結果と考察

〔聴覚的注意要因〕

A 児は、「話が一方通行な感じで聞いていないように見える」「授業とは関係ないことをしていることがある」とのエピソードから、話に興味をもたず注意を向けなかったり、途中で聞くことをやめたりすることがあるのではないかと思われた。A 児は、ASD の診断があり、注意の向け方の問題がきこえ困難の背景にあると考えられた。

B 児は、大きな音やうるさいところが苦手であるなど、聴覚過敏を示していた。騒音のある環境と静かな環境とを比較したところ、騒音下での聴性困難が顕著であった。聴性困難の背景に聴覚過敏があると考えられた。

〔聴覚的補完要因〕

C 児は、WISC-III が FIQ86、PIQ94 に対して VIQ81 であった。群指数も知覚統合 93、注意記憶 94、処理速度 103 に対して、言語理解は 80 であった。聞き取れなかった部分を推測して補う際に、語彙や統語の発達に遅れがあると、適切に欠けた部分を補うことが難しくなるものと思われ、言語面の問題が背景にあると考えられた。

D 児は、養育者から話し手の意図が伝わっていないと感じるときがあるとのエピソードがあった。WISC-III は VIQ111>PIQ90、絵画語い発達検査の評価点 SS が 10 であった。ITPA は、絵の類推や形の記憶が生活年齢より高い結果を示している一方で、ことばの類推が生活年齢よりも低い結果を示していた。知的障害を伴わない ASD は、言語の形式 (語彙、構文など) の発達が良好でも、語用や会話の障害をもっている (斉藤, 2008)。D 児も語用など言語発達の問題が背景にあるものと考えられた。

〔聴覚的記憶〕

E 児は、WISC-III の数唱の評価点 SS が 10 であった。音韻操作課題 (金子・春原, 2007) は、抽出課題よりも Reversal 課題に問題が見られた。恵羅・門廻・大庭 (2006) は、小学校低学年には、順唱の遂行成績に比べ逆唱の遂行が困難な児童がおり、それは実行機能の未発達によるものであると述べている。Reversal 課題も、聴覚的短期記憶だけでなく実行機能の関与が必要であると考え、背景に実行機能を含むワーキングメモリの問題があると考えられた。

〔聴覚的識別〕

A 児は、「静かなところで」「話に注意を向けていても」

聞き間違えたり聞き返したりすると指摘されていた。絵画語い検査の評価点 SS は 13 であり、語いの面では遅れはなかった。67S 語表による語音了解検査では「く」を「ふ」、「と」を「ろ」等と聞き間違いが見られ、背景に音韻意識の弱さがあるものと考えられた。

F 児は、WISC-IV の4指標の合成得点が VCI 111、PRI 115、PSI 96、WMI 91 であり、WMI は VCI や PRI に対して有意に低かった。数唱の評価点 SS が 10 に対し、語音整列が 7 であった。語音整列は、数字の間違いはなかったものの、仮名の聞き間違いや順番の間違いが見られた。養育者によれば、小学校低学年の頃、音韻の置換や音韻配列の混乱が、同年齢他児に比べ目立っていたとのことであった。F 児も背景に音韻意識の弱さがあると考えられた。

まとめ

事例を通してきこえ困難の要因ごとの背景を検討した。その結果、聴覚的注意は注意の向け方の問題や聴覚過敏、聴覚的補完は言語の問題、聴覚的記憶はワーキングメモリの問題、聴覚的識別は音韻意識の問題が背景にあることが示唆された (Table 2)。

Table1 要因別の平均評価得点

事例	聴覚的注意	聴覚的補完	聴覚的記憶	聴覚的識別
A	2.57	0.50	0.50	1.50
B	2.00	1.25	1.50	0.50
C	2.14	2.25	1.50	1.00
D	1.14	1.75	1.67	0.50
E	2.14	1.50	2.33	0.50
F	2.00	1.25	1.00	1.50

Table 2 聴こえ困難の背景にあると推測される問題

聴性困難の要因	推測される問題
聴覚的注意	注意の向け方・聴覚過敏
聴覚的補完	言語発達
聴覚的記憶	ワーキングメモリ
聴覚的識別	音韻意識

(文献)

小川征利・原島恒夫・堅田明義 (2013) 通常学級に在籍する児童のきこえの困難さ検出用チェックリストの作成-因子分析的検討を通して-。特殊教育学研究, 51(1), 21-29。
 斉藤佐和子 (2008) 広汎性発達障害。石田宏代・大石敬子 (編) 言語聴覚士のための言語発達障害学, 医歯薬出版
 金子真人・春原則子 (2007) 検査の認知神経心理学的解釈。宇野彰 (編著) ことばとこころの発達と障害。永井書店
 恵羅修吉・門廻宏昭・大庭重治 (2006) Wechsler 知能検査における算数、順唱、逆唱の関係: 成人と小学校低学年の子どもを対象として。発達障害支援システム学研究, 5(2), 1-6。

(OGAWA Masatoshi)